

# 基礎基本定着状況調査結果を受けて 指導方法等の改善計画について

# 広島市立亀崎中学校

## 国語

### 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	81.0	%
市平均	78.5	%
学校平均	86.6	%

### 領域ごとの通過率(%)

	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
学校	85.8	92.1	88.1	83.0
市	81.6	75.9	77.7	79.5
県	82.8	81.0	78.9	82.4

### 重点課題

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について  
 ○多様な語句を適切に使うことができるようになること。  
 ○書体の違いを見分けること。この2点が、県平均に達していない。  
 ○文の成分の基本的な知識を身につけ、文節の働きを見分けられるようになること。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 教材ごとに語句の意味調べを行って、文章を書く機会を単元ごとに設け、正しい意味用法を理解して使うことに生かす。
- ② 古典や書写の学習を通じて、楷書や行書の練習を行い、その違いを理解できるように指導する。
- ③ 主語述語の関係など、文節相互の関係をつかむことを読み取りに生かし、内容に理解につながるよう指導を続ける。

## 数学

### 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	74.1	%
市平均	71.9	%
学校平均	77.1	%

### 領域ごとの通過率(%)

	数と式	図形	数量関係	資料の活用
学校	79.1	80.6	72.1	61.1
市	73.9	72.1	70.3	60.4
県	75.5	74.9	72.6	64.9

### 重点課題

○昨年度「図形」「資料の活用」領域の通過率が低かったが、今年度大きく向上した。ただ、「資料の活用」領域では県平均と比較するとまだ低い。  
 ○分数の除法問題の通過率が県平均より15ポイントも低く、授業においては早急な指導が必要である。  
 ○「反比例の意味」「グラフの考察」問題の通過率が低く、思考判断する力の育成が課題である。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 通過率30%未満の生徒の割合は、県平均が6%に対して本校は2%と低い。昨年度からの少人数指導の成果によるものと思われる。今後の少人数指導の利点を活用して、基礎学力の定着を目指していきたい。
- 章末テストを実施し、各章の定着を確認しているが、最後の章である「資料の活用」領域の章末テストも時間的に難しい時期ではあるが、実施していきたい。
- ただ単に知識として理解するのではなく、その意味や活用方法を考えるなどの「数学的活動」をより多く取り入れていきたい。

## 英語

### 「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	74.2	%
市平均	72.2	%
学校平均	78.8	%

### 領域ごとの通過率(%)

	聞くこと	読むこと	書くこと	話すこと
学校	73.5	80.8	78.8	86.3
市	76.2	70.6	60.3	84.6
県	76.0	72.1	66.8	85.0

### 重点課題

- 聞く力において、会話の内容の理解と質問への適切な対応の力をつけていく。
- 書く力、読む力においては、力を持続させると共に、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように力をつけていく。
- 話すことにおいては、文章を読んだの英問英答を口頭で、落ちついて正しく言える力をつけていく。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 聞く力に関しては、新鮮なリスニング教材を用いて、初めて聞く英文に対しても、理解できるようにしていく。
- 書く力に関しては、基礎的な力をつけていると思われる。今後も継続して、授業中に書く時間を設けると共に、家庭学習においても、書くことを重視した課題を出していく。今後は、自分の思いを伝えられる英文を書くことも行っていく。
- 話す力に関しては、インタビューテストの回数を増やし、口頭での正答率をあげていく。
- 今後も、少人数指導のメリットを生かし、ペア活動を通して会話を楽しませていくと共に、個々の理解度に応じて、対策を練っていく。

## 生活・学習に関する調査

### 重点課題

- 学校の授業の「予習」「復習」をしようとしている生徒の割合が県平均より10ポイント近く低い。また、家庭での学習時間も約半数の生徒が30分以上1時間以下と解答し、家庭での計画的な学習が大きな課題である。
- 昨年度と同様に、「自分にはよいところがある」「自分のよさはまわりの人から認められている」と感じている生徒の割合が低く、自己肯定感や自己効力感がもてない生徒が多い。
- 「困ったことなどを解決するために、相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えている」生徒の割合が県と比較すると10ポイント低く、自分の思いを言葉で表現する力や意欲に欠けている。

### 重点課題に対する指導内容及び方法

- 家庭学習が不足している課題は、2学年のみならず学校全体の大きな課題である。今年度実施した保護者と連携した家庭学習を習慣化させる取り組みを、小学校・高等学校との連携も強化しながら、さらに推進していきたい。
- 「友達のよいところ」を見つけさせる学習や行事を展開し、自分のよさが周囲からどのように認められているかを知らせたい。また、学級においても一人ひとりのよさを多くの場面で紹介し、仲間とともに夢の実現に向かおうとする姿勢を育てていきたい。
- 授業や学級活動・行事のなかで、自分の考えを説明したり、思いを伝える場面をより多く設定し、表現力を育てていきたい。